

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社フレンズハウス)

事業所名 (グループホーム フレンズハウス七番町)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
コミュニケーション		メンタルコミットロボット パロ	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	1	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
【事業概要】 メンタルコミットロボットの導入により、アニマルセラピーと同様の効果として、利用者の不穏行動・引きこもり・不安・抑うつを改善、また認知症の進行を穏やかにストレス解消につなげる。それに伴い職員の介護の負担が軽減される。			
【導入スケジュール】 補助金交付決定後に購入・導入する。納品後、介護従事者へ利用方法を説明し、運用開始する。			
【倫理面への配慮】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族に対し、導入の目的や効果を説明し理解を求める。また運営推進会議において同様の説明を行う。 ・利用者がロボットや動物に対して拒否反応がある場合は無理に勧めない。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
アニマルセラピーの効果により情緒を安定させ、利用者の不穏行動や引きこもり等を軽減する。それに伴い、対応する職員の介護時間を減らし、介護負担の軽減、精神的ストレスの解消につなげる。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がロボットに興味を持ち、話しかけたり触れることでADLや意欲の向上、また認知症の進行を穏やかにさせる。 ・利用者の不穏行動が減少することにより、対応する職員の介護時間の短縮やストレスの軽減、それに伴い離職率の減少につながる。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
81 : 1	69 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>夜間の巡視訪室回数を軽減するために見守りセンサーを活用する。現状、夜10時から翌朝6時までの間、職員2名で1時間おきに18名（18室）巡視を行っている。見守りセンサー導入後、機器設置者利用者（4名予定）は、遠隔モニタリングにより睡眠状態が安定している場合は巡視を2～3時間おきに、できるだけ巡視訪室回数を減らす。それに伴い、利用者の安定した睡眠と職員の巡視回数の減少により介護時間の短縮につなげる。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪室することなく利用者の睡眠状態を把握することができ、訪室することで利用者を起こしてしまうことが減少し、安眠や必要最小限のトイレ誘導につなげることができる。また、離床センサーにより転倒・転落防止、また異常の早期発見につながる。 ・ 夜間巡視の訪室回数が減ることにより、介護時間の短縮、精神的・身体的負担軽減につなげる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守りセンサーを活用し、利用者の夜間の睡眠状態を遠隔でリアルタイムに把握することができる。これにより巡視訪室回数が減少し、利用者の安眠と適切なトイレ誘導を行うことができ安定した生活リズムをつくることができる。 ・ 職員は巡視訪室回数が減少することにより、介護に要する時間が減少し、業務の効率化につながる。遠隔リアルタイムで睡眠状態やバイタルを把握できるため安心感ができ、精神的・身体的負担の軽減につながる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 安形医院)

事業所名 (あがた指定通所リハビリテーション事業所)

サービス種別 (通所リハビリテーション)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		介護ふれあいロボットシステム (HIMBOT)	
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	2セット	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
利用者のADL低下で、職員の介護負担が増大するため、施設内にコミュニケーションロボットを設置し、利用者がロボットとふれあうことで、ADLの維持、向上を実現する。 (スケジュール) 令和3年11月：操作説明、設定作業 令和3年12月：稼働			
【倫理面への配慮】			
利用者および家族に、ロボットの使用目的と機能の説明を行い、同意の上、使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
1) 利用者がコミュニケーションロボットとふれあうことで、ADLの維持、向上を目標とする。(あいさつ、体操、レクリエーション、脳トレなど) →LIFE (科学的介護情報システム) のADL情報の指標で、評価を検証する。 2) コミュニケーションロボットが利用者と脳トレやレクリエーションを行うことで、職員の負担軽減につなげる。 →利用者と職員に満足度のアンケート調査を行う。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
1) 利用者のADLの維持、向上を介護ロボットが支援する。 2) 脳トレ機能で、計算、記憶、反射神経、選択問題などで、脳を活性化できる。 3) ロボットとレクリエーションで、体操や紙芝居などを楽しみ、みんなの参加を促す。 4) ロボットは、あいさつ、定時放送、ニュース、イベントをしゃべってくれる。 5) ロボットとふれあうことで、ポイントを付与すると、モチベーションがあがる。 6) ロボットと写真撮影ができるので、表情や作品を後から見返すことができる。			

(注) ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 愛生館)
 事業所名 (特別養護老人ホームひまわり・安城)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守・コミュニケーション		コミュニケーションロボット PALRO モデルIII	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年2月1日	1	令和4年1月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
コミュニケーションロボット PALRO を使用した、従業員の業務負担軽減と施設利用者へのサービス向上を目指す。 令和4年1月を目途に契約し、使用方法のレクチャーを受けた上で同年11月を目途に導入する。			
【倫理面への配慮】			
施設利用者が精神的に落ち着かない場合は直ちに使用を停止するように職員に周知徹底する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
・ 認知機能の低下した入居者への対応についての従業員負担の軽減 (一時的コミュニケーションの代替え)			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
・ 適切な運用をすることで従業員負担の軽減を図り、かつ利用者の生活機能の改善がみられる効果を期待する。			

(注) ・導入する介護ロボットごとに作成すること。